



安全、安心な出産をひろげたい マザーシェルター2棟目の建設します

ムワブラ村に2024年に建設した1棟目のマザーシェルター

写真/上山 敦司

ロシナンテスは、ザンビアの中央州チサンバ郡に2棟目のマザーシェルターを建設する予定です。マザーシェルターとは妊娠8ヶ月以降の妊婦さんが出産後まで宿泊する建物で、医療施設の近くに設置されます。今回の建設では安全、安心な出産を行えるだけでなく、幅広く産前健診や産後健診も行える場所にしたいと

考えています。郡とも協力し、必要とされる場所に必要なお金を提供することで、出産環境を改善することを目指します。

現在、郡内にある約20カ所の医療施設を対象に、妊産婦の死亡数、自宅出産数などのデータの洗い出しを進めています。これらの調査をもとに、特に優先順位の高い1カ所を事業地に決

1棟目の建設と今後の活動から得られた教訓は多岐にわたります。2023年3月に行った調査では、マザーシェルターの満足度に対して92%が「非常に満足」「満足」と答えました。これはスタッフに対する満足度、施設利用に対する満足度から成る調査ですが、どちらも妊産婦の期待に合致していました。これを紐解くと、家族が滞在できる待合室や衛生環境、電気、



ムワブラ村での小型エコー健診。父親が付き添う行動姿も写真/上山 敦司

マザーシェルターができて、妊婦さんたちは、ここで待つことができるようになったりとても楽になりました。以前は自宅で産気づくの待ってから25km歩かか、自宅で出産しなければなりませんでしたが、私たちは、とても感謝しています。マザーシェルターには、十分な家具が備わっていて、出産できる十分な広さもあります。今、妊婦さんたちはとても幸せです。

Q 今妊婦さんの様子はどうですか？

マザーシェルターができて、妊婦さんたちは、ここで待つことができるようになったりとても楽になりました。以前は自宅で産気づくの待ってから25km歩かか、自宅で出産しなければなりませんでしたが、私たちは、とても感謝しています。マザーシェルターには、十分な家具が備わっていて、出産できる十分な広さもあります。今、妊婦さんたちはとても幸せです。

Q マザーシェルターができる前はどのような状況でしたか？

マザーシェルターがなかった頃は、ほとんどの妊婦さんたちは診療所に行くのに、家からはるばるとも長い距離を歩かなければなりませんでした。診療所に行くには25kmかかることもありましたが、診療所まで距離が足りず、自宅まで帰って来てから、自宅まで歩いて行くという状況でした。とても大変で、産後ケアも満足できていませんでした。

Q マザーシェルターができて大きく変わったことはありますか？

出産前に待つ場所ができ、自宅からクリニックへの移動の負担が軽減されてうれしいです。そして、もうひとつ、私の前の出産は診療所内の古い分娩室で行われましたが、この分娩室には産後室や待合室などの適切な設備が整っていませんでした。一度に複数の出産があると十分なスペースがありませんでした。しかし、今は、十分な部屋があり、非常に広々としています。

Q 小型エコー健診を利用してみようとしたか？

前回、小型エコー健診を受けたとき、赤ちゃんの位置が良くないことがわかり、検査のために病院を紹介され助かりました。とても感謝しています。

遠回り

《第30号》

認定NPO法人ロシナンテス 発行
〒802-0082
北九州市小倉北区古船場町1-35
北九州市立商工貿易会館 7F
TEL:093-521-6470
E-Mail:info@rocinantes.org



スーダンだより
スーダン情勢………2面

ザンビアだより
SPAQ産官学NGO連携…3面

特集企画／
ザンビア事務所引越し…4面

ザンビアの援助と日本／
日々ツラツラ日記………5面

国内イベント情報
イベントレポート………6面

国内情報………7面

事務局からのお知らせ…8面

水等の安定したインフラがあることが強く影響していました。これらは2棟目のマザーシェルターの設計にも役立ちます。



ムワブラ村のマザーシェルターに滞在した妊婦さん

ムワブラの事例を参考に

私たちは、2021年にマザーシェルター1棟目を同じチサンバ郡のムワブラ村に建設しています。今回と同じく「安全、安心な出産」をテーマに掲げ、これまでに500人を超える妊婦がこのマザーシェルターで出産しました。2棟目の建設はこの事例が参考になります。

事務局だより

ザンビア駐在員の佐藤です！4月にこの土地に降り立ってから、もう半年以上が経ちました。強い日差しに負けずに働いています。

現在の私の小さな目標は、現地の言葉を少し話せるようになることです。私たちの事業地は地方に位置しており、英語を話さない地元の人々との会話は、ちよびり難しいことも。そこで、ローカルスタッフから少しずつ現地の言葉の一つであるニャンジャ語を学び、簡単な挨拶ができるようになりました。異国から来た自分が現地の言葉で挨拶すると、多くの人々が好意的に受け入れてくれ、友好的なコミュニケーションが取りやすくなる時が多いです。

私たちロシナンテスは、地域住民・地域の医療従事者と協力し事業を行っており、円滑な事業進行に信頼構築は特に大切です。現地の言葉での挨拶は、相手の文化や伝統を尊重を示す重要な行動の一つだと考えています。ジョークを言えるぐらいに頑張ります。

私たちNPO法人ロシナンテスの名前は、小説「ドンキホーテ」に出てくるドンキホーテが乗る瘦せ馬のロシナンテに由来しています。「私たち一人一人は瘦せ馬ロシナンテのように無力かもしれないが、ロシナンテが集まり、ロシナンテになれば、きっと何かできるはずだ！」と考へ、「ロシナンテス」と名付けました。

今後もこれを信念として一歩一歩進んでいきたいと考えておりますので、皆さまのご支援をよろしく願ひ致します。

ロシナンテスの「寄付型自動販売機」を設置しませんか？



お問合せ

ロシナンテスは、「寄付型自動販売機」の設置によってご支援いただける取り組みをスタートしました。

寄付型自動販売機とは、自動販売機の売上げ1本ごとに、任意の額をロシナンテスへ寄付をすることができる自動販売機です。

設置オーナーは、設置の初期費用や、管理・振込みなどの手間もかからず、社会貢献ができます。また、購入者も気軽にアフリカ支援に参加することができます。

設置にご関心のある個人・法人の方は、お気軽に下記問い合わせ先までご連絡ください。
特定非営利活動法人寄付型自動販売機普及協会
フリーダイヤル 0120-937-650 <http://kjf.or.jp/rocinantes.html>



PC購入で支援！寄付額アップキャンペーン実施中



12月は寄付額アップ！
NPO 応援企画
「想うプロジェクト」
寄付額 10%
キャンペーン
ZERO PCの購入 \ 私たちの応援に/
zeropc ROCINANTES

ロシナンテスでは、パソコン購入で支援できる取り組みを行っています。環境への負荷ゼロを目指すエシカルパソコン、ZERO PCを購入すると、購入金額の一部がロシナンテスへの寄付になります。

このZERO PCは、寄付になるだけでなく、地球環境の保護と、難民支援にもなるパソコンです。廃棄されるパソコンを回収し、心臓部を新品に交

換して再生することで、CO2の排出を削減しています。また、難民として日本に逃れて来たスタッフがパソコンの整備をしており、日本で安心して働ける場を提供しています。

12月は、寄付の割合が3%から10%にアップするキャンペーンを実施しています！パソコンをお買い換えをお考えの方は、ぜひご検討くださいませ。

【ZERO PCの購入はこちら】https://zeropc.jp/report/omou_rocinantes

- ①「商品シリーズ」ページで気になるシリーズを選ぶ
- ② シリーズページより好きなパソコンを選ぶ
- ③ 購入画面の「想うプロジェクト支援先」より認定NPO法人ロシナンテスを選んで決済



「JAMMIN」コラボ チャリティーアイテム販売御礼＆再販のお知らせ

10月2日から10月8日の1週間、チャリティー専門ファッションブランドである「JAMMIN」さんが、Tシャツやバッグなど、ロシナンテスオリジナルデザインのチャリティーアイテムを販売してくださいました。

1週間で、350点ものアイテムが購入され、SNSでは133の記事のシェアがありました。寄付総額は212,730円となり

ました。ご協力くださった皆さま、誠にありがとうございました！

また、この度、皆さまのリクエストにお応えして、2024年1月末までJAMMINのウェブサイトで再販を行っております。ぜひこの機会にお買い求めください。詳細は同封しているチラシをご参照ください。

ロシナンテス 応援企業

内科・外科・消化器内科・緩和ケア内科



医療法人 明気会
岩本クリニック
理事長 岩本拓也
北九州市小倉南区中興一丁目20-50
TEL 093-472-1281
FAX 093-472-6712

がんばれロシナンテス!

税理士法人
小城会計事務所
北海道旭川市東光8条1丁目1-1
TEL.0166-31-2313

内科/消化器内科/リウマチ科
柏木内科医院
院長 柏木 陽一郎
福岡県北九州市小倉北区片野2-21-10
tel 093-921-7943
<http://www.kashiwagi-naika.com/>

ロシナンテスのスタッフを
応援します!!
日常の事業活動の利益を
NPO活動の篤志へ繋げたい
時計宝飾・古物売買
株式会社 ブランドリーネ
代表取締役 青山昇一
〒276-0046
千葉県八千代市大和田新田355-16-103
TEL:047-450-5720
yachiyoe@e-daikoku.com
<https://shop.e-daikoku.com/info/spot/detail?code=0000000239>

マザーシェルターができてよかった。

ムワブラ診療所スタッフ&利用者インタビュー



ムワブラ診療所で働く看護師グウェンさん



ムワブラのマザーシェルターを利用した妊婦ジェニファーさん

たことが明らかになりました。

この課題に対して、私たちはマザーシェルターを管理する診療所と一緒についていくのがプログラムを実施してきました。診療所スタッフや地域のルスポランティアが協働し、妊産婦エコー

健診の重要性と正確な情報を伝えることができました。これらの活動から得られた教訓を、2棟目のマザーシェルターのプログラムに生かし、妊産婦のための産前健診、出産、産後ケアを充実させたいと考えています。



軍事衝突から7か月、混迷の Sudan

Sudanでの武力衝突が発生してから7か月が経過しました。隣国や国際社会による調停努力にもかかわらず、首都などでは依然として激しい戦闘が続いています。日本では Sudan に関する報道をほとんど目にすることがなくなり、改め、今回の軍事衝突の経緯と現在の状況をお伝えいたします。

Table with Sudan's history: 1958年 アブドゥルナシール軍事政権樹立, 1964年 暴動によりアブドゥルナシール軍事政権崩壊, etc.

2023年4月15日、Sudanの首都ハルツームで、Sudan国軍とR S F (Rapid Support Forces) の対立が激化し、大規模な戦闘に発展しました。R S Fは、民兵組織を起源とする準軍事組織との対立が激化し、大規模な戦闘に発展しました。

現在の Sudan の状況は？

国連によると、この軍事衝突による死者の数は9千人を超え、Sudan国内では推定490万人が避難を余儀なくされています。さらに、およそ120万人が隣国の中央アフリカ、チャド、エジプト、エチオピアなどに逃れています。

今回の紛争で、Sudan国内の多くの地域で農業への深刻な影響を及ぼしており、今後数ヶ月間の食料安全保障への懸念が高まっています。

今回の軍事衝突の直接的なきっかけは、正規軍とR S Fを統合するという計画が合意されなかったことに起因します。2019年のクーデター以降、紆余曲折しながらも民主化へのプロセスが徐々に進んでいきましたが、その過程において、軍部の組織改革を行い、双方が権力を委譲することが求められていました。



日本人職員は陸路でポートスーダンへ向かい自衛隊機で国外退避、4月29日に日本に帰国しました

ロシナンテスの支援地はいま

診療所の建設や昨年度ハフィール改修を行ってきたウッド・シュウエイ村は、首都のハルツームから車で2時間ほどの砂漠に点在する村のひとつです。元々ネットワーク環境の問題で気軽に連絡が取れない地域だったため、4月の軍事衝突以降、状況がわからなくなりました。



雨季になり水がたまり始めたハフィール

現地スタッフから皆さまへメッセージ

現在、ロシナンテスの現地スタッフ5名は、首都ハルツームを離れ、親戚や友人を頼って比較的戦闘が活発ではない地方都市に避難しています。会計スタッフのラビニアからメッセージをご紹介します。



会計スタッフラビニア

「私たちはこれまで、とても安全に暮らしており、戦争が起こる心配など全くしていませんでした。今はハルツームを離れ地方の都市で4家族で平和に暮らしながら、毎日私たちの国に安全が訪れることを祈っています。当面の間、私たちは安全な状況ですが、軍事衝突のために私たちの生活は変わりました。この目まぐるしく悲惨な状況から逃れら



スマホアプリを活用して母子の健康を守る 産官学NGO連携でプロジェクト開始

7月より、総務省の「ICT海外展開パッケージ支援事業」の地味な助成を受けて新規プロジェクトを開始しました。これは、スマートフォンアプリを用いたデジタル産科健診パッケージを医療施設に導入し、その有効性を実証していくプロジェクトです。



このプロジェクトではロシナンテスを含めた5つの日本の組織が参画し、産官学NGO連携の体制を実現しています。株式会社SOIKが事業を総括し、ロシナンテスは現地調査とモニタリング、九州大学が医療分析と評価、EcoSoc株式会社が水質調査と分析、そしてヘルスアンドテック合同会社がデジタルシステムの開発と運営を担当しています。

デジタル産科健診パッケージSPAQは、医療情報管理(電子カルテ)の機能をもつスマホアプリです。従来、小型モニターなどの様々な検査データは独立して管理されていましたが、これらがSPAQのプラットフォームに統合されることで、医療データを二元的に管理することができ、総合的な情報分析が可能になります。

7月中旬に事業地選定調査を行い、9月初旬には中央州チサンバ郡のリテタ郡病院、リテタヘルスセンター、マロンベルスセンター、チペンビヘルスセンターの4つの医療施設の医療従事者とヘルスボランティアを対象に研修を実施しました。



川原による研修開催のあいさつ

マザーシェルターに井戸ができました！

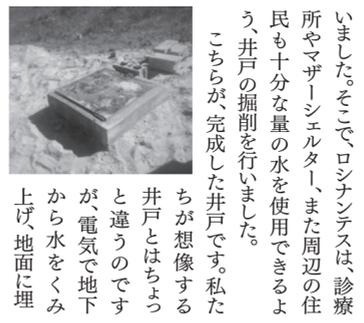
2021年にマザーシェルターを建設したムワブラ地域では、水不足が課題です。これまで村には共用の井戸が1つしかなく、それを学校、市場、近隣世帯、診療所で分け合っていました。

この井戸の水は、マザーシェルターに大きな恩恵をもたらします。分娩の際、感染症を引き起こすリスクを避けるために清潔な水は不可欠です。



井戸と合わせて2基となりました。この水の管理は、地域の「水管理委員会」が担います。

結核患者の早期発見に向けて研修を行いました



ロシナンテスは、ザンビアで感染者数の多い結核に対処するため、富士フィルム株式会社が開発したポータブルX線撮影装置を活用し、患者の早期発見を目指す事業を行っています。

研修活動の際には、郡病院の放射線技師が撮影しますが、画像の診断は各施設の准医師、看護師が担当します。しかし、両施設にはもともとX線装置がなくX線画像診断を行わないために、診断に対して自信がない方もいました。

ポータブルX線撮影装置は中央州チサンバ郡、チボボ郡にある4つの医療施設へ試験導入され、1台の装置を4か所共同利用するローテーション活動を予定しています。

研修には各施設から准医師、看護師を含んだ5名が参加しました。研修では最初に基本的知識を復習し、その後X線画像を見て診断する実践的練習を行いました。



を重ねるにつれて、より正確な診断を下せるようになっていきました。次回の進捗では、ローテーション活動を開始し、実際に彼らがX線画像を用いて診断を下している様子や活動の成果などを共有する予定です。

雲 外 蒼 天

開発協力とザンビア 今後の展望

2023年6月9日、日本の途上国への政府開発援助(ODA)を定めた「開発協力大綱」の改定が閣議決定されました。気候問題や感染症等の地球規模課題をめぐる動きの進展、ロシアによるウクライナ侵攻とそれに端を発する途上国における人道危機など、様々な危機が複合的に生じていることを背景に8年ぶりに改定が行われました。

では、今回の改訂の内容は具体的にどのようなものだったのでしょうか。

オファー型協力の導入

大きな変更点の1つは、オファー型協力の導入です。日本のODAは、従来相手国からの要望を受けて支援する「要請主義」となっていました。しかし、こうした要請型のODAは、援助が細切れとなり継続的にできないことなどの弊害が指摘されており、より戦略的に実施するべきであるという意見もありました。

今回、改訂された2023年の開発協力大綱においては、要請主義を維持しつつも、相手国からの要請を待つだけでなく、日本の強みを活かした魅力的なメニューを作り、積極的に提案していく「オファー型協力」を強化する旨が初めて記載されました。これにより、ハード面とソフト面の協力を組み合わせて行うことができ、新興国や開発途上国が抱える様々なニーズに応え

る付加価値の高い支援ができるようになる」とされています。

途上国の債務に言及、ザンビアも影響

もう一つ特筆されたことは、「途上国の債務」に関してです。今回の改訂に伴い、開発途上国の債務の持続可能性に十分配慮し、これを強化すべく、開発協力を「行う」という文言が新たに明記されました。

相手国の債務に配慮することが明記された背景には、中国がアジア・アフリカでこれまで進めてきた莫大な援助の存在が伺えます。中国は、2013年からアジアとヨーロッパを中心に、陸上と海上で東西をつなぐ「一帯一路」を推進しています。

この構想のもと、中国は、開発途上国に鉄道や港湾などインフラの整備に巨額の投資を行ってきました。しかし、返済能力に乏しい開発途上国が債務の返済に行き詰まり、債権国に対して融資を受けて建設したインフラの権益を渡す「債務のわな」と呼ばれるケースが発生してきています。

ロシナンテスが活動するザン

ビアも、中国から巨額の投資を受けており、鉄道やインフラの建設が進みました。すでに、600社ほどの中国企業がザンビアに進出しており、1万人以上の中国人が働いています。しかし、2020年11月に債務不履行に陥り、2022年末時点で公的債務、民間債務、国営企業債務を合わせて185億8千万ドルの債務を抱えていました。現在は、G20が用意した低所得国の債務減免を促す「共通枠組み」を活用して、債務再編を進めています。

このような状況を踏まえ、開発途上国の債務持続可能性に配慮し、自立的、継続的な成長に繋がるような借款を行っています。

日本政府も 対アフリカ外交を強化

西村経済産業大臣は、8月、ザンビアを含むアフリカ5カ国を歴訪しました。ザンビアでは、ヒレマ大統領、カブスウェ鉱山・鉱物開発大臣と会談しました。ザンビアは銅のほか、電気自動車用のバッテリーに使われる重要鉱物のコバルトやニッケルを産出する資源国で、資源外交の重

要国に位置付けられています。今回の訪問で、西村大臣は、ODA、人材育成など包括的な関係構築を行うことで、将来的な安定供給していくことについて意見交換し、「鉱業分野における協力に関する共同声明」に署名しました。

ロシナンテスも、これまで日本政府と連携しながらザンビアの開発に貢献してきました。2021年に建設したムワブラ村のマザーシエルトは、ODAの1つである日本NGO連携無償資金協力によって実施されたものです。

また、政府資金を活用するほか、各組織とのコラボレーションも同時並行で進めています。ポータブルレントゲンによる結核の早期診断事業や、スマホアプリを活用した母子保健事業の立ち上げなど、政府機関のみならず民間企業、学術機関にも協力を得ながら、新しい事業に挑戦しています。組織では簡単に解決が難しいことでも、コラボレーションをすることで大きな変革を目指せると考えています。

ロシナンテスはこれからも、変化する国際社会や技術革新を柔軟にとらえ、多様な資金多様な組織と連携しながら、NGOとして現地のニーズに寄り添った支援を行っていきます。

ザンビアの 村落部の人々に 突撃インタビュー!

ロシナンテスが事業を行っているザンビアの村落部に暮らす人々は、どんな人たちなのでしょう?

現地スタッフが中央州チサンバ郡にあるチペンビヘルスセンターにて、インタビューをしてきました!

好きなものは? 日本ってどんなイメージ? 聞いてみた

チボさん(32歳) ヘルスセンターに来たお母さん

メロティさん(24歳) ヘルスセンターの助産師

Q1. 将来やりたいことは何ですか?
チボさん「牧師になりたいです。」
メロティさん「進学して、産科医になりたいです。」

Q2. どんな遊びが流行っていますか?
チボさん「サッカー」
メロティさん「サッカー、ネットボール」

Q3. 日本をどう思いますか?
チボさん「技術が進んでいる国」
メロティさん「他の人、特に弱い立場の人に対する情熱があり、解決策を見つける手助けをしてくれる。」

Q4. 休日は何をしていますか?
チボさん「仕事をしていますが、休日は家で子供たちの世話をしています。」
メロティさん「副業、家族との団らん、友人とバスケットボールなどのゲーム」

Q5. 趣味は何ですか?
チボさん「ゴスペルを聴くこと、聖書を学ぶこと」
メロティさん「読書(自己啓発本、スピリチュアル本、健康本など)」

Q6. 好きな料理は?
チボさん「野菜(叩いた落花生を混ぜたもの)とシマ(白トウモロコシの粉をお湯で練って作る主食)」
メロティさん「デンテレ(砕いた落花生、玉ねぎ、トマトを加え、干し魚を叩いてローストしたもの)」

わたしたちは、こんな一日を過ごしています!

マーシーさん(30歳) ヘルスセンターに来たお母さん

マチルダちゃん(13歳) 小学校7年生

5:00 起床、朝食(主にシマ、たまに米)

7:00 起床、お祈り、朝食(主にお粥、時々パンや紅茶も)

午前中の過ごし方 家の周りの掃き掃除、火の準備、ガーデニング

午後の過ごし方 昼食の準備、洗濯、家の掃除、休憩

平日の過ごし方 学校で勉強やスポーツ(サッカー、ネットボール、陸上競技など)

休日の過ごし方 午前中/血洗い、家の掃除、水汲み
午後/血洗い、掃除、食事作り

19:00 食事の準備、夕食、勉強

20:00 夕食の準備、夕食、子供の入浴、絵本の読み聞かせ

21:00 寝る準備をし、就寝

22:00 妹と就寝

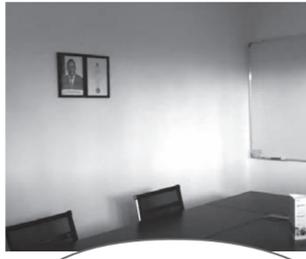
ザンビア事務所 引越しました!

ザンビアの首都ルサカにあるロシナンテスのザンビア事務所は、7月に移転を行いました。駐在員や現地スタッフはどんなところで働いているのか、新事務所とその周辺をご案内いたします!

会議室に飾られてる写真は…?

以前の事務所は、作業スペース以外にキッチンや庭などがある家屋でしたが、今回移転した場所は、他の企業も入っているビル内にあり、オフィス用机や会議室などの設備が整ったオフィスらしいスペースです。

会議室には、現大統領のハカインデ・ヒレマ氏の写真とNGOの登録証が飾ってあります。ザンビアでは企業や病院、公的機関は大統領の写真掲げる義務があるそうです。



以前の家庭的な雰囲気とは違って新しい経験ですね。自分専用のオフィスエリアやデスクを持てるようになったので、ビジネスライクな雰囲気です。仕事をしに来たという感じがします!



現地スタッフ タリオ

事務所のビル目の前には、赤子を抱えた母親像が建っています。どのような意味があるのかは不明ですが、母子保健事業を行っているロシナンテスにとっては親近感があり、日当たりが良いため、記念写真はいつもこの像の前で写真を撮っています。この場所での写真をご紹介します。紹介することがあるかもしれませんが、ぜひ楽しんでみてください。

ザンビア事務所 定番の撮影場所…?



日々ツラツラ日記 ④ ザンビアの いろいろ豊かな花々たち

みなさまこんにちは。スーダン駐在員の七條です。4月末にスーダンから退避した後、4か月の日本でのリモートワークを経て、8月末にザンビアに赴任し、約2か月が経過しました。

ザンビア事務所では、本紙でも紹介している電子カルテアプリとモバイルエコーを用いたデジタルヘルス促進事業を主に担当しています。どっぴり南半球エリアに入るのははじめてなので、暑い夏にクリスマス? などと少し緊張しながら渡航準備を進めてきました。

首都ルサカに到着して驚いたことは、緑が豊かであり、樹木が彩り鮮やかなことです。これはアフリカのどの国でも言えることですが、日本に比べるとアフリカ大陸というのは砂漠や草原のサバンナのイメージが強いかもしれません。しかし実際は大通り沿いには街路樹として大きな樹木が植えられており、公園や共有地、大邸宅の庭先でもカラフルな樹木が目立ちます。

10月前半までは薄紫の花が鮮やかなジャカランダ(日本名:紫雲木)、10月後半に入るとアフリカンチューリップ(日本名:火焰木)がとも鮮やかに咲いています。この二つは世界三大花木の一つだと聞いて驚きました。日本人は桜や金木犀で季節を感じますが、こちらの人たちは木々の色合いで季節の移ろいを感じることが多いと思います。



ジャカランダ (日本名:紫雲木)

事務所敷地内に咲く色鮮やかに火焰木(かえんぼく) 紙面ではわかりづらいのですが、鮮やかな赤い花です



こしています。

ロシナンテスが2つの賞を受賞しました

ロシナンテスは、この度「第1回 第一交通産業創業者黒土始賞」および「第30回 読売国際協力賞」という、2つの栄誉ある賞をいただきました。

この受賞は、長年にわたりロシナンテスを支えてくださっているご支援者の皆さま、スーダン、ザンビアで事業に協力いただいている関係者やパートナー団体の皆さまも含め、これまでロシナンテスと関わってくださっている全ての皆さまのおかげだと強く感じております。これを励みとし、誰もが健やかに生きることができる世界を実現するため、今後もさらにアフリカの地域医療に尽力してまいります。

第一交通産業創業者黒土始賞

「第一交通産業創業者黒土始基金」は、地域経済の持続的な発展または地域社会の福祉の向上に貢献のあった中小零細企業および団体・個人を表彰するものです。

ロシナンテスの受賞理由として、下記コメントをいただきました。「SDGsが世界の共通言語となるずっと以前より遠いアフリカ・スーダンの地で医療支援を開始。近年は活動地域にザンビアが加わり、医療支援のほか古井戸・貯水池の改修や学校施設の建設など生活インフラ整備も行っている。」
「川原理事長は2～3ヶ月に1度地元小倉に帰ってくる以外はアフリカ現地で活動。日本への帰国時はアフリカでのデジタルヘルス（遠隔医療やモバイルX線、指紋認証付デジタル母子手帳）導入に向けた豊田通商、富士フィルムとの打ち合わせや、九州大学や長崎大学、熊本大学との産学連携プロジェクトに関与し、日本とアフリカをつなぎアフリカ地域の社会福祉の向上に大きく貢献している。」

読売国際協力賞

「読売国際協力賞」は、さまざまな活動を通じて国際社会への貢献の重要性を身をもって示した個人や団体、企業を顕彰するため、1994年に読売新聞創刊120周年を記念して創設された賞です。今回ロシナンテスは、スーダンでの巡回診療など17年にわたりアフリカでの医療支援に貢献してきたことを評価され、受賞するに至りました。

受賞にあたり、読売新聞社から以下のコメントをいただきました。「日本は、グローバル・サウスの代表格であるアフリカで政府開発援助(ODA)やアフリカ開発会議(TICAD)などの支援を積み重ねてきましたが、中国の影響が増して日本の存在感は低下しています。そうした中、地域のニーズに沿って現地の人に寄り添う、ロシナンテスのような地道な長期的な活動こそ、医療や保健、教育支援で途上国の信頼を得てきた日本の顔の見える民間の国際協力の模範と言えるでしょう。」

12月1日(金)には、東京・帝国ホテルにて贈賞式が執り行われ、多くの来賓が見守る中、理事長 川原が賞状と副賞を受け取りました。11月17日(金)読売新聞(朝刊)にて今回の受賞が発表されたほか、活動地へ取材もいただき、ロシナンテスのこれまでの歩みや活動をまとめた特集記事も掲載されました。ぜひご覧いただけますと幸いです。



読売国際協力賞 公式サイト
<https://www.yomiuri.co.jp/choken/y-kyoryoku/>



読売新聞 デジタルストーリー
<https://www.yomiuri.co.jp/slides/s/globalcooperation30th/>



【活動内容①】出前授業

アフリカでの生活経験がある元教諭や講師が市内の小学校、高校に出向き、現地の生活や文化について授業を実施します。日本との違いを知り、自分たちの生活を振り返ることで世界に関心に向け、国際理解を深める機会を提供します。現在のところ、市内の8校の小学校と、1校の高等学校で実施を予定しています。



【活動内容②】活動展示会および活動報告会

写真を通じてアフリカの現状やロシナンテスの活動について知ることができる活動展示会、および活動報告会を開催します。本イベントは、市民に開放しており、どなたでも参加可能です。3月の中旬に開催いたします。詳細は右ページをご覧ください。

北九州市でふるさと納税を活用した協働事業「アフリカから学ぶ国際教育プロジェクト」がスタート

ロシナンテスは、企業版ふるさと納税(※)を活用し、NPOと北九州市が協働で実施する地域課題解決事業「アフリカから学ぶ国際教育プロジェクト」を実施することになりました。このプロジェクトは、国際社会で活躍できる人材を育てるためのプログラムとして、2024年3月まで実施され、北九州市の企業版ふるさと納税から補助金が交付されます。ロシナンテスと学校等が連携し、アフリカの生活や文化、問題を知ることを通して、北九州市の子どもたちや市民に、地球規模での視野を広げる学びの場を提供していきます。

※企業版ふるさと納税とは、国が認定した地方公共団体の地方創生の取り組みに対し、企業が寄付を行った場合に、法人関係税から税額控除する制度です。最大で寄付額の9割が軽減されます。

2023年12月22日(金) 【オンライン】

マザーシェルター2棟目建設 ザンビア活動報告会

ザンビア中央州チサンバ郡で、2棟目のマザーシェルターを建設するために準備を進めています。ムワブラのマザーシェルター建設で得た知見を活かし、どのような事業を目指し進めているのか、駐在員からご報告いたします。

日時 ■ 2023年12月22日(金) 20:00開始/21:00終了
申込 ■ <https://www.rocinantes.org/news/event/?no=187>



2024年1月13日(土) 【オンライン】

皆さまのご支援でできたこと 2023年を振り返って(ご支援者様限定)

2023年を振り返って、理事長の川原がご報告します。感謝の気持ちを直接お伝えするとともに、スーダン・ザンビアでの活動報告と今後の展望について、たっぷりとお伝えできればと思います。

日時 ■ 2024年1月13日(土) 14:00開始/15:30終了
対象 ■ ロシナンテスのご支援者様

申込 ■ <https://www.rocinantes.org/news/event/?no=186>



2024年1月21日(日) 【北九州/オンライン】

結核事業 ザンビア活動報告会

ザンビアで感染者数の多い結核に対処するため、富士フィルム株式会社が開発したポータブルX線撮影装置を活用し、患者の早期発見を目指す事業を行っています。活動を通してどのような効果が見えてきているのかご報告いたします。

日時 ■ 2024年1月21日(日) 16:00開始/17:30終了
申込 ■ <https://www.rocinantes.org/news/event/?no=188>



国内イベントレポート

ムワブラ診療所へようこそ!ザンビアオンラインツアー ▶ 5月14日、8月17日

5月14日と8月17日の2回にわたり、ロシナンテスのザンビア事業地であるムワブラ診療所を訪ねるオンラインツアーを開催しました。ザンビアの村落部では、診療所まで歩いて何時間もかかる地域が多く、家を出産したり、診療所に向かう途中で出産したりするケースが多くみられます。ロシナンテスは、こうした状況を改善し、施設での安全なお産を増やすことを目指して、ザンビアのムワブラ地域で活動しています。



本ツアーでは、首都ルサカの事務所からムワブラ地域までの道のりをたどりながら、診療所とロシナンテスが建設したマザーシェルターの中を、理事長 川原のガイドのもとご案内、さらに近隣の村の様子や、宿泊している妊産婦さんたちの生活もご覧いただきました。

イベントは終了いたしました。5月14日開催のアーカイブ動画をご覧ください。ご希望の方は下記よりお申し込みください。

アーカイブ視聴申込URL:
<https://forms.gle/gu3L1jhBz8Z2ut1E6>



2024年3月6日(水)～12日(火) 【北九州】

アフリカを知る活動展示会

ロシナンテスのザンビアでの活動や、現地の人々の暮らしを、写真家上山敦司さんの写真で紹介する活動展示会を北九州で行います。ザンビアの人々を切り取った素敵なお写真をご堪能ください。

日時 ■ 2024年3月6日(水)～3月12日(火)
場所 ■ J:COM北九州芸術劇場 市民ギャラリー
申込 ■ 不要です。直接会場へお越しください。

2024年3月9日(土) 【北九州】

ロシナンテス活動報告会 & 写真展ツアー

理事長 川原より、活動を始めた経緯から、現在のスーダン・ザンビアでの活動についてご報告いたします。また、報告会后、「アフリカを知る活動展示会」会場に移動し、川原自らが案内する写真展ツアーも行います。

日時 ■ 2024年3月9日(土)
活動報告会 13:30-14:30
写真展ツアー 14:45-15:30
場所 ■ 西日本工業大学 小倉キャンパス 大講義室
申込 ■ <https://www.rocinantes.org/news/event/?no=189>



掲載イベントは【参加費無料】です

お申込フォームの利用が難しい方は、メールもしくはお電話でご連絡ください。
A.メール…宛先/info@rocinantes.org 件名/活動報告会申込
メール本文に以下の項目のご記載をお願いいたします。
(参加希望のイベント日付・お名前・メールアドレス・事前に聞きたいことなど)
B.お電話…TEL:093-521-6470(受付:平日10時～17時)
認定NPO法人ロシナンテス

EVENT REPORT

久しぶりの会場開催、講演会@大阪&東京 ▶ 8月11日、9月30日

新型コロナウイルスの流行により長らくオンラインのみのイベントが続いておりましたが、この度、大阪および東京にて、久しぶりの会場開催の講演会が実現しました!

大阪では、8月11日に開催しました。当日は、同会場で、ザンビアでの活動を撮影くださった写真家上山敦司さんの写真展も行われており、「医とこころと人」というテーマで、ザンビアの人々を切り取った素敵な写真が展示されました。川原による講演会後、上山さんによる写真展ツアーも行われました。

また、東京では、9月30日に株式会社セントラルユニ様のマッシュアップスタジオをお借りして開催しました。理事長 川原より、活動を始めた経緯から、スーダン・ザンビアでの活動、軍事衝突が勃発してからのスーダンの状況までをたっぷりお伝えしました。当日はご支援者の方だけでなく、初めての方や、学生時代に川原の講演を聞いた方など、様々な方にお越しいただきました。

ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

